2021 年度（2022 年 3 月）

ディプロマ・ポリシーに関わる卒業（観点別・就業力）アンケート結果について

2022 年 9 月 26 日
教育支援部長

長崎外国語大学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、DP）については以下のように定めている。

長崎外国語大学では以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、卒業を認定する。
(1)学部共通カリキュラムの多面的履修を通して、基礎的な学習能力を養うとともに、人間・社会・自然に関する知識を自らと関連付けて理解し、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。
(2)学科における体系的学習と学科を横断する幅広い学習とを通して、外国語の運用能力と専門分野の知識を獲得し、地域や現代世界の多様な課題を発見、分析、解決に導く能力を身につける。
(3) 4 年間にわたる教室内での学びや、プロジェクト科目、海外留学、卒業論文等の作成を通して、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、コミュニケーション力、課題探求力、問題解決力、リーダーシップなどを総合する力を身につける。

DP に基づいて学士教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー、CP）が設計されることになるが、DP において学生が身につけるべき能力をカリキュラムマップ上において科目群毎、科目毎に明示している。つまり、教育課程編成上のどの科目でどのような能力が養われるのかを明らかにしている。身につけるべき能力を 5 つの観点によるカテゴリーに大分類し、さらにその 5 つのカテゴリーを小分類化して教育課程上に科目を位置づける（カリキュラム･マップ）ことによって、学生たちが養うべき能力を見極めながら科目の選択を行える体制をとっている（DP による 5 つの観点はシラバス上に記載してある）。

卒業時に行うこのアンケートは、1 年生秋学期から毎学期行われているもので、DP に関わる本学での 4 年間の学修に対する学生による最終的な自己点検評価であり、本学の 3 つのポリシーに新たに加わるアセスメント･プランに関わるものである。このアンケート結果によって、DP および CP の点検を行い、必要に応じて改訂する。これに連動して、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー、AP）の点検と見直しも実施する。

以下では、各カテゴリー別の回答結果をまとめ、簡単ではあるがコメントを付す。

カテゴリーA

このカテゴリーは、いわゆるインプット能力の自己評価ということができる。いずれの設問においても、およそ９割の学生が①～③に回答している。この点で学生の自己評価は非常に高い。

入学時においては、他のカテゴリーと比較した場合、本学の学生にとっては一番苦手な分野ともいえる。とはいえ、卒業時にはある程度こうした能力が身についていると自己評価をしているのが回答結果からは見えてくる。さらにいえば、①と回答する学生の割合を増加させる方策が求められるだろう。

カテゴリーB

このカテゴリーは、発見力・分析力・思考力・判断力・意志決定力・課題解決力などに関する自己評価である。いずれの設問に対しても、①～③の回答が全体の９割を占めているがことから、学生の自己評価は高いといえる。

しかしながら、「情報や知識を多角的な視点から論理的に分析し表現できる」の設問への回答は、他と比較した場合に①の割合が低いことに注目すべきであろう。今年度の９月の回答結果でも同じであったが、これは多角的かつ論理的に分析することの困難さを学生が感じていると推察できる。この点に関しても授業の中でこうした能力が重要であることを授業担当者の側から受講する学生たちに明確に伝え、理解を促進する努力が求められる。

カテゴリーC

このカテゴリーは、行動力や積極性、認識力や社会性などに関する自己評価である。いずれの設問においても、①～③の回答が全体の９割をであることから、学生は高い自己評価を行っていることがわかる。

また特筆すべき点は、他のカテゴリーと比較した場合、①の割合が高いことであろう。9月の回答結果でも同様であったが、いろいろなもの挑戦しようとするのが本学学生の特色をこの数値はまさしくこのことを示しているといえよう。

カテゴリーD

このカテゴリーは、協調性や協働力、実現力や率先力などに関する自己評価である。いずれの設問においても、①～③の回答が約９割である。ここもカテゴリーC 同様、①の数値が高い。これも「協調性」に長けているという本学学生の特徴を十分に表現しているといえる。一般的にリーダーとしての資質を有する学生よりは、周囲の人たちを見て、自分の役割を認

識し、グループ全体の中で自分の行動のあり方を見定める学生が本学においては多いとよくいわれているが、この回答結果から見るに、「協調性」への自己評価であると考えられる。この分析は９月の結果でも同じであった点を付記しておく。

カテゴリーE

このカテゴリーは、コミュニケーション力や表現力、ICT などに関する自己評価である。ここでもすべての設問で約９割の回答が①～③を占めており、学生の自己評価は高い。

ただ、設問 13 において③と回答している学生の割合が他と比べて多い。外国語の学習を中心に行っている本学学生にとって、この設問での高評価を目指すことが急務である。さらに設問 14 においても同様で、学生が ICT を積極的に利用することが求められるが、これは ICT に関連する自己評価だが、学生にとってさまざまな機器を DP との連関で考えること習慣があまりなかったことに起因するのではないかと分析する。

全体として

総体的に DP の達成度は高いという学生の自己評価が現れていると判断できるアンケート結果である。この点は本学教職員の努力が結実しているということができる。ただし、カテゴリーE の設問 13 の結果を看過することはできない。どのようにしてこの部分をよりよいものとすることができるようになるのか、関係各所への宿題といえよう。

以　上